

「憲法改正が安倍元首相の供養になる」と主張する自民党

飯島滋明

名古屋学院大学
(憲法学・平和学)

1 憲法改正に関する

改憲政党的発言

八月四日、自民党の議員グループ「日本の尊厳と国益を護る会」

(代表・青山繁晴参議院議員)は国会内で会合を開いた。今後の組織のあり方として、スパイ防止法の制定などをテーマにした複数の分科会の設置を申し合わせた。憲法改正に関する分科会も想定している。

八月五日、自民党は安倍元首相が亡くなってからはじめての憲法改正実現本部を開催した。ここでは憲法改正の実現にむけたとりくみを一層強化することが確認された。

古屋圭司自民党憲法改正実現本部長は「しつかりとみなさん同じ気持ちで、この憲法改正実現にむけて取り組んでいきたい。このところが安倍元総理に対する供養になる。私はそう信じております」と発言した。

八月三〇日、国民民主党の玉木代表は記者会見で立憲民主党の執行部に対し、「憲法審査会は止め

ないでもらいたい。開くこと自体がニュースになる古いやり方から脱却したはずだ。野党第一党として協力してほしい」と発言した。

2 統一協会と自民党改憲案

についてのネットの書き込み

ネットでは自民党の憲法改正案を支持する意見が多かった。ところが故安倍氏をはじめとする、多くの自民党議員が統一協会と濃厚接触議員であることが明らかになると、自民党の改憲案に対するネットでの支持は影を潜めた。むしろ自民党改憲案への疑惑と批判が強まった。ここでは統一協会と自民党の密接な関係を踏まえての自民党(改憲案)への批判の一部を紹介する。

・ここまで統一協会に支配されていることが明らかになった自民党政権など、もはやネットウヨにも支持されないだろう。そもそも自民党の改憲草案は、最初から最後まで統一協会の希望通りの内容で、自民党のオリジナリティーなどぜ

口なんだし、統一協会のための改憲など望む国民など一人もいないだろう。

・安倍元首相銃撃事件が凶らずも明らかにしたことがある。それは自民党とカルト教団と憲法改悪が三点セットであることだ。この事実には多くの国民が気付けば、改憲の流れは確実に止まる。

・統一協会の件が問題になっているだけでなく、自民党と統一協会(国際勝共連合)の改憲案に一致している部分が多いので、自民党の改憲案は一切支持できません。

・自民党と国際勝共連合の改憲案の両方を読むと、とてもじゃないけど自民党が与党のうちには憲法改正なんて気はなくなりますよ。自民党の政治家から統一協会との関係と、憲法改正草案の内容から統一協会の意向や思惑がなくなならない限り、憲法改正の話に乗っかってはいけません。

・自民党の改憲案は統一協会の改憲案と類似点が多くて論外です。
・自民党に憲法改正をさせてはな

りません。カルトを政治から切り離せなくなりません。

・改憲には賛成だが、先に旧統一教会の問題などを解決すべき。国民を苦しめる団体と癒着疑惑があるうちは無理では？

・日本国憲法を統一教会の憲法に変更するなど断固阻止します。

・マザームーンが裏の元首なんてまっぴらです。統一改憲と言われているんです。

・デマかと思つて検索して改憲草案を見たらまあまあ本当だったのでびつくりした。

3 市民の動き

七月三〇日、風情豊かでない温泉として有名な「飯坂温泉」(福島)にある「パルセいざか」で、「被曝七七周年原水爆禁止世界大会・福島大会」が開催された。講演内容も社会に対する提起として極めて重要であったが、とりわけ聴衆が感銘を受けたのは、「高校生平和大使」の発言であった。四人の高校生平和大使の発言は聴衆に感動を



与えたが、福島ということ、一人の高校生平和大使の発言を紹介する。

「福島県いわき市で」私が震災を経験したのは五歳でしたが、今でも鮮明に覚えています。……その後の生活は一変しました。友達や親せきは放射線の影響を受けないよう避難した人も多く、バラバラになりました。私自身も家族と会津に避難しました。また、放射線が飛んでいるため外で遊ぶことができず、小さいころから住んでい

た、大好きな家にも行くことができません。そして大きな放射線測定器が身近な場所におかれはじめは、つまでこの機械を置いておくのか疑問に思いましたが、それが置かれていたり

前のように思っています。ですが、私よりもっとつらい経験をした人が多くいます。今でも自分の故郷に帰れない人も多く、帰還困難区域や解除された場所は、あの日から時間が止まっている場所が多くあります。……いま現在、原発再稼働が考えられています。ですが、私は反対です。二度と福島のようなことを繰り返してほしいと思わないし、同じ思いをする人や、私と同じような経験をする子どもを増やしたくはありません。このように、核兵器、核の使用は多くの人々の日常を奪い、多くの人が悲しい思いをします。なので、私は核のない世界を求めます。そのことを強く思いながら、高校生平和大使の活動をしていきたいと思えます。ご清聴、ありがとうございます」。

八月三日、学者や文化人たちが構成される「世界平和アピール7人委員会」は「世界平和統一家庭連合(旧統一教会)」と政治家とのかわりあいについて「選挙で勝つためには国民の苦難を顧みない政治、国民への加害をいとわぬ宗教団体に寄生する政治と言っても過言でない」と批判し、教団に関する政治家に対し「即退場を求め」とする声明を出した。国葬についてはさまざまな団体による声明、訴訟、集会などの批判・とりくみがなされている。ここでは地域のとりくみの一つを紹介する。

八月二五日一七時、「築城基地の米軍基地化を許さない京築住民会議」は「安倍元首相『国葬』に反対し憲法改悪・大軍拡を止めよう！」をスローガンに「ゆめタウン行橋(前交差点)でスタンディングを実施した。約一六名が参加した。(写真)

九月七日、東京電力第一原発事故による放射線被ばくの影響で甲狀腺がんになったとして、事故時に未成年で福島県内に住んでいた一七歳から二八歳の男女六人が東電に約六億一六〇〇万円の損害賠償を求めた訴訟の第二回口頭弁論が東京地裁で開かれた。事故当時六歳だった高校三年生の女性が意見陳述した。傍聴席から姿が見えないようにしていたが置かれた。

女性は事故当時、幼稚園年長で福島県東部の浜通り地域に住んでいたが、家族と避難した。甲狀腺がんと診断され、一三歳で手術した。もう大丈夫だと思ったが、二〇二一年にも再発、再び手術を受けて、つらい放射線治療を受けた。

彼女は「将来自分が何をしたいかわかりません。ただ経済的に安定する公務員になりたい、恋愛も結婚も出産も私とは縁がないものだと思っている」と女性は語った(『東京新聞』二〇二二年九月八日付)。

◇飯島コメント

自民党は「安倍元首相の供養」などとして憲法改正を主張する。依然として「壺」右翼(壺ウヨ)とも言われる安倍氏や自民党の憲法改正案を支援する。ただ、安倍氏や多くの自民党政治家が統一協会と「濃厚接触議員」であることが明らかになるにつれ、ネットでも自民党の憲法改正に批判的な主張が増えた。自民党が主張してきた、自衛隊明記の憲法改正、緊急事態条項の導入などは統一協会が主張する憲法改正案と似ている。自民党が主張する憲法改正が実現されれば、統一協会の思うツボとなりかねない。統一協会が望む自民党の憲法改正を私たちは国民投票などで認めるのか。そもそも自民党と統一協会の憲法改正案は無関係なのか。このことを私たちはあらゆる場所で問題にして、社会に提起する必要がある。